

直方ミニバスケットボールクラブだより

共育コラム

「自分に勝て、「チームになる」をめざして



国内では、新型コロナウイルスの感染拡大の収束状況が続いており、この間、安定的に活動を進めることができている。しかし、まだ安心できる状況ではありません。世界的には変異株のオミクロン株が急拡大しています。「感染力は強いが症状は重くない」という研究者もいますが、まだ十分な研究が進んでいるわけではなく分かっていないことが多いようです。国内で感染が大きく広がらないことを願いつつ、引き続き、できる感染対策は続けていかなければなりません。感染が拡大し、市民生活の大半が止まったあの状況を再び味わいたくありませんね。子どもたちもそうでしょう。長期にわたって活動が止まったときの生活を思い出すと「二度と...」と思うのではないのでしょうか。活動できることが当たり前ではなく、活動できる時間が有限であることを実感したと思います。その時間をこれまで以上に大切にしていきたいと思います。

10月から再スタートし、ちょうど2か月が経過します。体調も元にもどり、11月はさらなるレベルアップに向けて取り組んできました。そして12月は大会参加に向けたチームづくりに取り組んでいます。直方クラブとしてのチームオフense、チームディフェンスを繰り返し練習しています。

見る力（視野）と聞く力（声）をアンテナにして得た情報をもとに、正しい判断（選択）でプレーを行う力が試されます。もちろん前提として、チームオフenseのシステム、チームディフェンスのシステムの理解なくしては実行することはできません。非常に頭脳を使います。理解力・思考力・判断力・決断力・実行力、そして勇気が求められます。「競技力」と「学力」がリンクするのは、このようなことがあるからです。

能力は学校でも鍛えられますし、クラブでも鍛えられます。いずれで鍛えた能力も、双方で活かすことができます。脳を刺激し、脳の発達を促しているのですから。そして強いのは、体を通して学ぶことができることです。学校教育でも大切と言われるようになってきているのは体験的に学ぶことです。机上で教科書とノートだけの学びでは、理解の度合いが浅く、時間が経つと、その多くがはがれ落ちてしまうと言われる。中学生、高校生でも、試験が終わると、受験が終わると多くを忘れてしまっていると言われるのと同様です。体験的な学びは、実感を伴います。腑に落ちる、納得で

きる学びなのです。

大会参加に向けたチームづくり、この段階にくると、チーム（メンバー）そろっての練習が多くなり、練習参加が今まで以上に大きな意味をもってきます。その中で、学び合い、助け合いの協力関係が生まれます。なかま（人）とのつながりを強く実感し始める成長段階でもあります。チームとしての課題をみんなでクリアしなければならない課題が多くなります。これまでになく、きびしく要求することもあります。うまくいかないこと、わからなくなること、できなくなること、そしてくじけそうになることもあります。そのときに、互いを気づかい、学び合い、励まし合い、助け合うことのできる関係かどうか問われます。“チームになる”とはそういうことです。

直方クラブが設立当初からモットーとしていることばは、“自分に勝て”です。誰のなかにも存在する「強い自分」と「弱い自分」。そのなかの「弱い自分」に負けるな！という意味で、事あるたびに子どもたちに言っています。

自分で考えることなくまわりに流される自分、思い通りにならないといらつく自分、うまくいかないと人を責めてしまう自分、失敗するとすぐあきらめてしまう自分...、そんな弱い自分に負けるな！ 自分の弱さと闘え！ そして、自分の弱さに勝て！ 試合に勝とうが負けようが、自分に負けた姿が現れてしまえば、その勝ちを自分でも喜ぶことはできないだろうし誰も喜んでくれない。自分に勝った姿を表現できていれば、多くの人が拍手を贈ってくれる。

直方クラブは、まだチームなっているとは言えません。今、チームになれるよう努力しているところです。ときにつまずきながら、また立ち上がり、一步一步前に進んでいるところです。そのプロセスを経験できていることが重要です。みんなでいっしょに活動するから経験できることです。個人学習では、この学びは存在しません。

大会までにどこまでもっていけるか、11月までとは違った空気感のなかで、活動しています。ようやく少し追い込む段階にきました。しばらく子どもたちと日々格闘です。

